

## 令和3年度 全国学力・学習状況調査の結果(深谷小学校)

平均正答率

(単位 %)

	国語	算数
深谷小	72	75
埼玉県(公立)	65	69
全国(公立)	64.7	70.2

質問紙調査より

※質問事項は質問紙調査より抜粋したもの

※「している」「どちらかといえばしている」を合わせた値

(単位 %)

	質問事項	深谷小	埼玉県	全国
生活習慣	朝食を毎日食べている	100	95.5	94.9
	毎日、同じくらいの時刻に寝ている	92.8	83.2	81.2
	毎日、同じくらいの時刻に起きている	89.2	91.4	90.4
	学校の授業時間以外に、平日、1日当たり30分以上読書をしている(教科書・雑誌・漫画は除く)	36.1	39.5	37.4
学習習慣	家で、自分で計画を立てて勉強をしている	88.0	76.1	74.0
	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができる	90.4	81.6	78.3
	5年生までに受けた授業で、課題解決に向け、自分で考え、自分で取り組んでいた	92.8	81.9	78.2
	学校の授業時間以外に、平日、1日当たり1時間以上勉強をしている(学習塾等で勉強している時間も含む)	68.7	65.0	62.5
教科への関心	国語の勉強は好きだ	72.3	57.9	58.4
	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	97.6	91.6	91.8
	算数の勉強は好きだ	83.1	66.8	67.8
	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う	97.6	92.4	92.6
その他	自分には、よいところがあると思う	83.1	78.0	76.9
	将来の夢や目標をもっている	85.6	81.4	80.3
	人の役に立つ人間になりたいと思う	97.6	94.9	95.5
	今住んでいる地域の行事に参加している	87.9	57.1	58.1

## 深谷小の「よかった点（○）」と「課題（●）」

### 【国語】

- 平均正答率において、埼玉県の数に対し7%上回っている。また、ほぼすべての問題において、全国及び県の正答率を上回っている。
- 無解答率が非常に少なく、長めの文章を書く記述問題においても無解答率は0~3.7%であった。（県は1.8~9.1%）
- スピーチの構成を考えたり、文章全体の構成や展開を考えたりする問題において、県の正答率をやや下回った。
- 全国及び県の正答率も低いが、「修飾と被修飾の関係を捉える」問題において、正答率が43.9%であり、全問題の中で最も低い正答率であった。

### 【算数】

- 平均正答率において、埼玉県の数に対し6%上回っている。また、ほぼすべての問題において、全国及び県の正答率を上回っている。
- 無解答率が非常に少なく、考え方について文章を書いて説明する記述問題においても無解答率は0~3.7%であった。（県は1.9~11.0%）
- 以下の3つの問題について、県の正答率をやや下回った。
  - ・午後1時35分から50分後の時刻を書く。
  - ・直角三角形を組み合わせた図形の面積についてわかることを選ぶ。
  - ・余りのある除法の商と余りを基に、23個のボールを6個ずつ箱に入れていくときに必要な箱の数を書く。

### 【質問紙】

- ほとんどの項目において肯定的回答が全国及び県の平均値を上回っている。
- 特に「学習習慣」や「教科への関心」についての質問項目では、大幅に全国及び県の平均値を上回っており、学習において意欲的な児童が多いことがうかがえる。
- 読書量についての質問項目で全国及び県の平均値をやや下回っており、読書の習慣が定着している児童がやや少ないことが分かる。また、起床時刻についても定まっていない児童がやや多い傾向にある。

## 課題への取組・改善策

### 【国語】

- ・全国及び県の平均値は超えているものの、やはり文章記述における正答率は低い。そこで、業前の時間に取り組んでいる「チャレンジタイム」で、繰り返し文章記述の問題に取り組む。また、解説の際に、解答条件の全ての条件をクリアしている記述かどうか振り返らせることで、自分の解答の課題に気付けるようにしていく。また、下の学年のうちから同様の取組を行う。
- ・単元ごとの評価テストの解説の際、根拠となる記述を探す活動を行い、読み取る力を高める。
- ・課題のあった修飾語の問題について学習する場面を増やし、定着を図る。

### 【算数】

- ・「チャレンジタイム」で、基礎的な計算だけでなく、答えに至る過程を説明することを繰り返す。
- ・毎時間の授業で、自分の考えの根拠を書いたり、説明したりする活動を多く取り入れていく。
- ・図や式から考えを説明したり、考えを図や式にしたりする活動を意図的に取り入れることで、図・式・言葉に関連させて考える習慣をつける。

### 【その他】

- ・読書の習慣を身に付けるために、低学年のうちから継続して働きかける。また、家庭への協力も呼びかけていく。

